

ブラジル株式市場、急落後に急反騰

HSBC投信株式会社

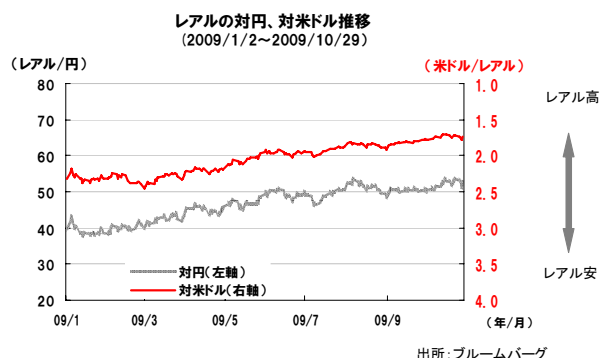
- ・ 今週のブラジル株式市場はボラティリティが高まり、ボベスパ指数は28日(水)に前日比-4.8%と急落した後、29日(木)は同+5.9%と急反騰しました。
- ・ 28日(水)の急落は、①金融取引税(IOF)の株式投資への適用、②原油・資源価格の急落、③主要国株式市場の下落、などを背景としたものです。他方、29日(木)の急反騰は、①米国の第3四半期実質GDP成長率の好結果、②原油・資源価格の反騰と資源大手ヴァリ(旧リオドセ)の予想を上回る決算、などを材料としたものです。両日の市場では、原油・資源価格の急落・反騰が、ボベスパ指数の約35%を構成する石油大手ペトロブラスと資源大手ヴァリの株価に影響し、同指数の大きな変動をもたらしました。
- ・ ここにきて投資家マインドはやや不安定化している向きがあり、ブラジルを含む新興国の株式市場はなおボラティリティの高い状態が続く可能性があります。ブラジルの国内景気は回復基調がより明確となりますが、世界経済はなお不透明要素を多く残しており、引き続き米国を初めとする先進国や中国を中心とする新興国のマクロ経済動向を注視する必要があると思われれます。
- ・ しかしながら、ブラジル株式市場は、①国内景気の回復、②企業収益の改善期待(第3四半期、第4四半期決算がアナリスト予想を上回る可能性)、③2014年のサッカー・ワールドカップ、2016年のリオデジャネイロでの夏季オリンピックといった大型イベントを控え、今後、インフラ投資が急ピッチで進むこと、などから引き続き有望な市場と見えています。

ブラジル株式市場、急落後に急反騰

今週のブラジル株式市場は、ボラティリティが高まり、28日(水)に前日比-4.8%と大幅下落した後、29日(木)は+5.9%と急反騰しました。

通貨リアルも、対米ドル(終値)で27日(火)の1.74リアルから28日(水)は1.78リアルへと下落した後、29日(木)は1.73リアルへと大きく戻しました。

※末尾の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をお読みください。



28日(水)の急落、29日(木)の急騰の背景

28日(水)にボヘSPA指数が前日比-4.8%と大幅下落した理由としては以下が挙げられます。

① 金融取引税(IOF)の株式投資への適用

政府は10月20日(火)より、海外投資家によるレアル建債券及び株式購入時の外国為替取引に2.0%の税率を課すこととしました。同税は、2008年3月以降、債券投資に対して1.5%の税率が適用されていたものですが、同年10月23日に0%に引き下げられていました。今回は、同税率が2.0%に引き上げられるとともに、株式投資も新たに課税対象に加えられました。この措置は、市場関係者の一部では、ブラジル株式市場にとって短期的なマイナス要因と受け止められた模様です。

因みに、28日(水)は、今年4番目のIPO(新規株式公開)で8億8,140万レアル(約450億円)を調達したブラジル最大のクリアリングハウス(証券の決済機関)Cetipの上場初日でしたが、同社の株価は-9.5%となりました(但し、翌日の株価は前日比+5.9%と反発)。金融取引税の課税で海外投資家からの資金流入が減少したことが影響したものと見られます。

② 原油、資源価格の急落

米国の住宅指標の悪化などから米国経済をはじめ世界経済の回復に対する不透明感が増し、原油・資源価格が急落、28日(水)のWTIは前日比-2.6%、CRB指数は同-2.0%となりました。これを受けて、石油大手ペトロbras株が前日比-4.8%、資源大手ヴァリ(旧リオドセ)が同-4.5%と大幅安となりました。なお、この2銘柄はボヘSPA指数の約35%の構成比率を占めており、両銘柄の株価は同指数全体の動きに大きく影響しました。

③ 主要国株式市場の下落

28日(水)は米NYダウ工業株30種が前日比-1.2%、英FT100指数が同-2.3%、独DAX指数が同-2.5%、

新興国では香港市場上場のH株指数、レッドチップ指数が各々-2.4%、-1.8%、インドのSENSEX30指数が-0.4%、ロシアのRTS指数が-3.7%と軒並み下落しており、主要国市場の低迷もブラジル株式市場にとってマイナス要因となりました。

一方、29日(木)にボベスパ指数が前日比+5.9%と一転して反騰した理由としては以下が挙げられます。

① 米国第3四半期実質GDP(国内総生産)成長率の好結果

29日(木)に発表された米国の第3四半期の実質GDP成長率は前期比年率+3.5%となり、5四半期振りにプラスに転じるとともに、エコノミストの予想中央値+3.2%を上回りました。これを受けて、米景気の先行きに安心感が広がり、米国株市場が上昇、さらに欧州、北米・南米市場も総じて反発しました。米国経済への依存度が高いブラジルの株式市場では、米国のGDPの数値が大きくプラスに働いた模様です(2008年実績では米国はブラジルの最大の貿易相手国)。例えば、売上高の約40%を米国向けが占める鉄鋼大手ゲルダウは前日比+7.7%と急騰しています。

② 原油・資源価格の反騰、資源大手ヴァリの予想を上回る決算

米国の予想を上回る第3四半期GDP成長率などから、世界経済の見通しならびに原油・資源需要に対する市場関係者の見方が改善し、原油・資源価格が一転して急反発しました。29日(木)のWTIは前日比+3.1%、CRB指数は+2.1%となっています。これを受けて、ペトロプラス株は前日比+5.3%、ヴァリ株は+8.6%と前日の急落から一転して急反発しました。

また、ヴァリは金属市況の反発に加えて、28日(水)に発表された7-9月期決算も好感された模様です。同社の同期の純利益は前年同期比65%の減益となったものの、アナリスト予想は上回り、前期比では改善しました。同社は「世界の景気後退が予想より早く終了し、金属需要が増加している」とコメントし、またその後米国の第3四半期GDP成長率が前期比プラスに転じたとの報道が加わり、同社株価は急騰しました。

今後の見通し

ここにきて投資家マインドにやや不安定化の傾向が見られ、ブラジルを含む新興国の株式市場はなおボラティリティの高い状態が続く可能性があります。ブラジルの国内景気は回復基調がより明確となっていますが、世界経済はなお不透明要素を多く残しており、引き続き米国を初めとする先進国や中国を中心とする新興国のマクロ経済動向を注視する必要があると思われます。

しかしながら、ブラジル株式市場は、①国内景気回復の鮮明化、②企業収益の改善期待(第3四半期、第4四半期決算がアナリスト予想を上回る可能性)、③2014年のサッカー・ワールドカップ、2016年のリオデジャネイロでの夏季オリンピックといった大型イベントを控え、今後、インフラ投資が急ピッチで進むこと、などから引き続き有望な市場と見ています。今回の金融取引税の措置は、短期的にはマイナス要因ですが、中長期的な海

外からの投資資金フローに与える影響は限定的と見ており、通貨レアルの安定推移の見通しも変える必要はないものと考えています。

(以上)

<関連するファンドに関わる事項>

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。又、投資信託は、個別の投資信託毎にリスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては「投資信託説明書(交付目論見書)」を良くご覧下さい。

お客様には投資信託のご購入にあたり、以下の費用をご負担いただきます。

○申し込み時に直接ご負担いただく費用

- 申込手数料 上限 3.675%(税込)*

○換金時に直接ご負担いただく費用

- 信託財産留保額 上限 0.5%*

○投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

- 信託報酬 上限年 2.1%(税込)*

○その他費用の詳細は各々の投資信託の「投資信託説明書(交付目論見書)」をご確認下さい。

*費用の料率につきましては、HSBC 投信が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係る費用はそれぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に良く「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧下さい。

HSBC 投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 308 号

(社)投資信託協会会員/(社)日本証券投資顧問業協会会員

当資料のお取り扱いにおけるご注意

当資料は、HSBC投信株式会社(以下、当社と言います)が情報提供を行う目的で作成したものであり、特定の投資信託等の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料は法令に基づく開示書類ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料に記載された市場の見通し等は作成時点での当社の見解であり、今後予告なしに変更されることがあります。また、当資料に記載された当社の見解等は、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。